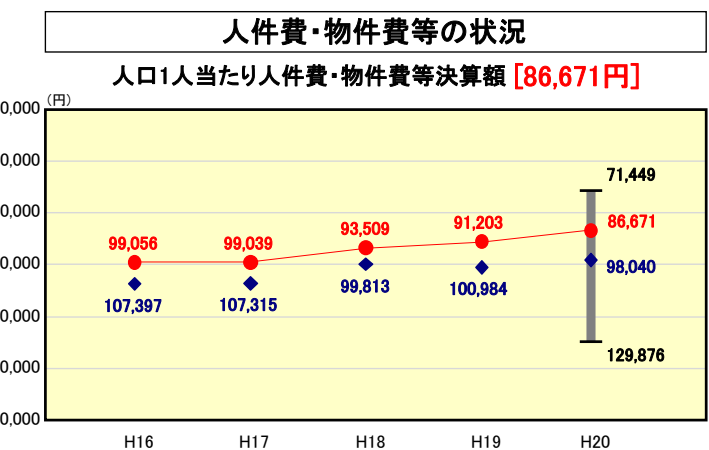
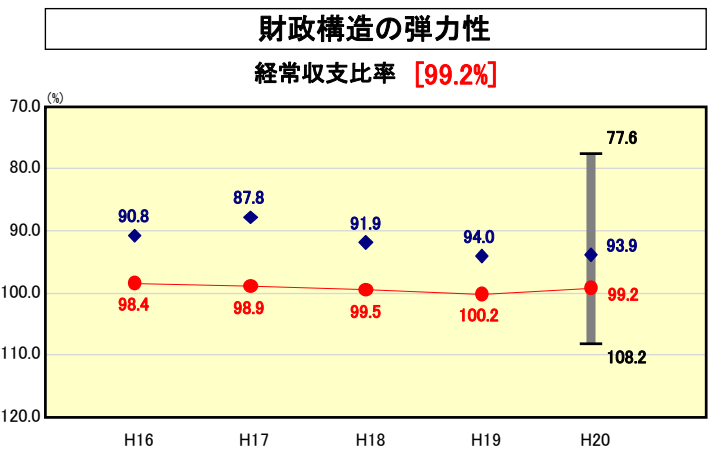
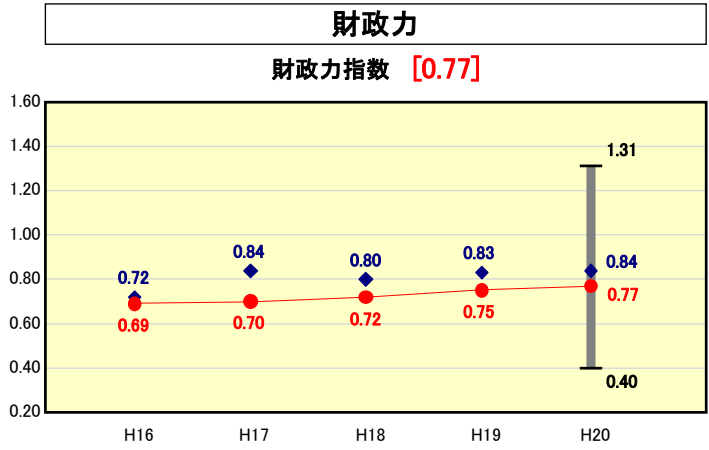


市町村財政比較分析表(平成20年度普通会計決算)

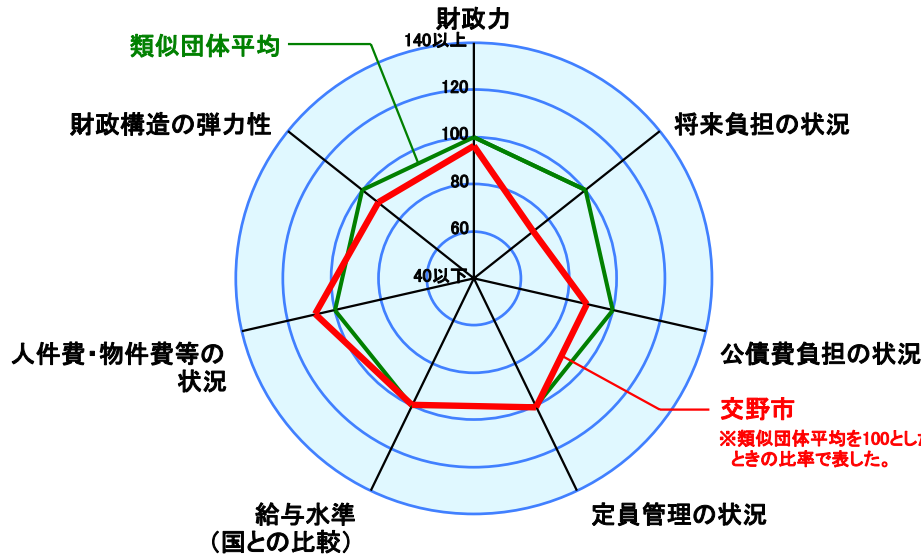


※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

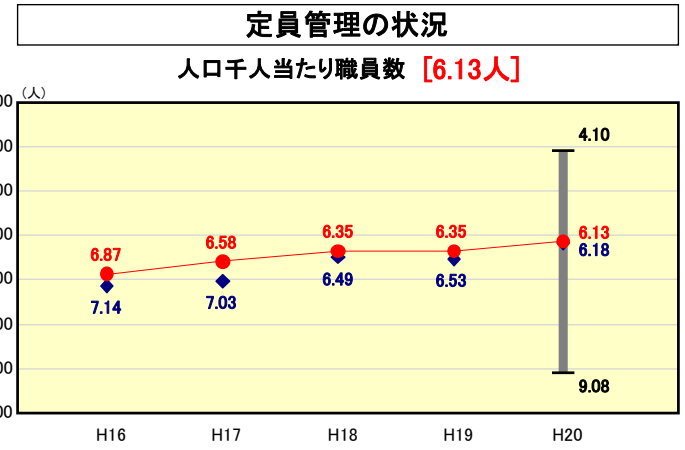
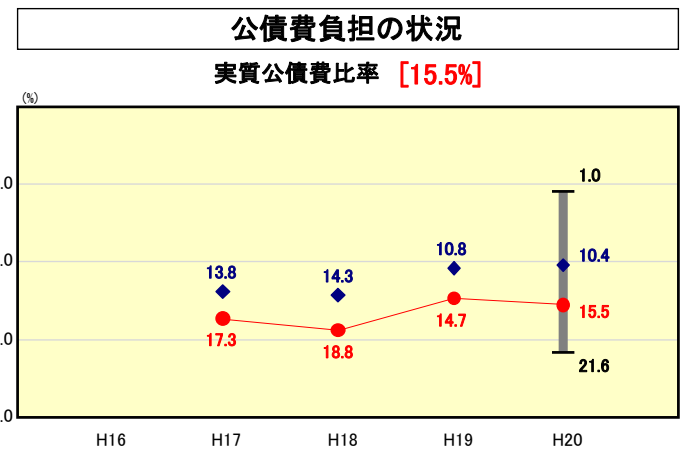
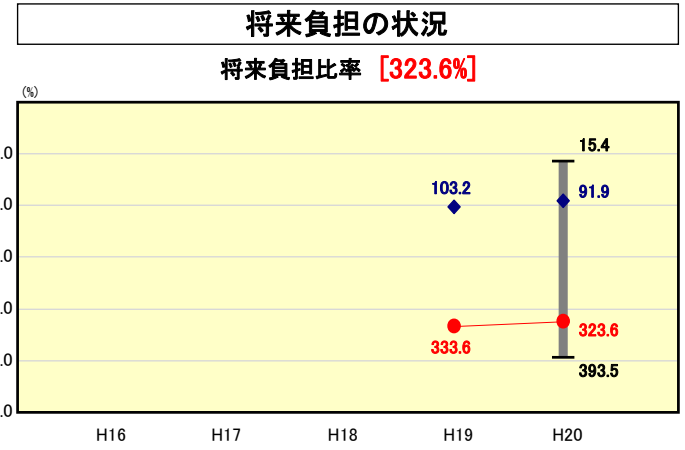
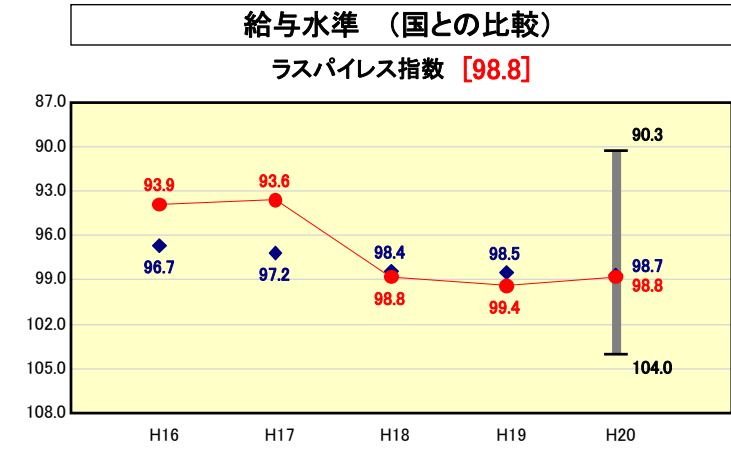
分析欄

- 1. 財政力指数**
市内に中心となる産業等がないことにより財政基盤が脆弱であり、類似団体平均を0.07下回っている。新規採用の抑制等による職員数の削減(H17からH22で8.7%の減)、地域手当等の見直し等による歳出削減を実施するとともに、徴収等の徴収強化にも取り組み、財政の健全化を図る。
- 2. 経常収支比率**
都市基盤整備等を実施するために発行した市債の公債費が多額であること、生活保護受給世帯の増加等に伴う福祉関係経費の増加等により、類似団体を上回る率となっている。市債発行の抑制、職員数の削減を含む人件費の削減など義務的経費の削減を図り、経常収支比率の改善に努める。
- 3. 人口1人当たり人件費・物件費等決算額**
類似団体平均と比較して、人件費・物件費等の適正度が高くなっている要因として、退職者補充を抑制し人件費の削減に努めてきたこと、民間でも実施可能な部分について指定管理者制度の導入したことなどによる。今後も、新規採用の抑制などにより経費の低減に努める。

| | | |
|--------|------------|-----------------|
| 人口 | 78,470 | 人(H21.3.31現在) |
| 面積 | 25.55 | km ² |
| 標準財政規模 | 13,428,270 | 千円 |
| 歳入総額 | 19,768,325 | 千円 |
| 歳出総額 | 19,613,290 | 千円 |
| 実質収支 | 122,802 | 千円 |



※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
 ※平成21年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。

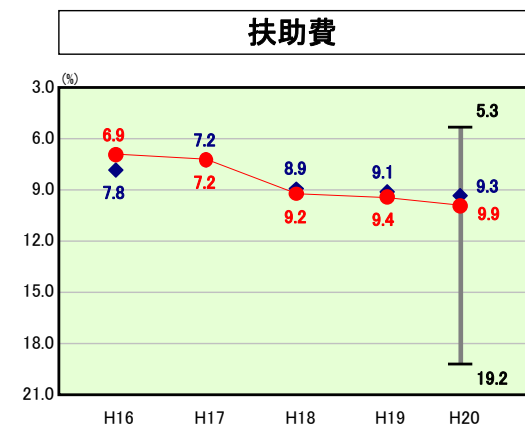
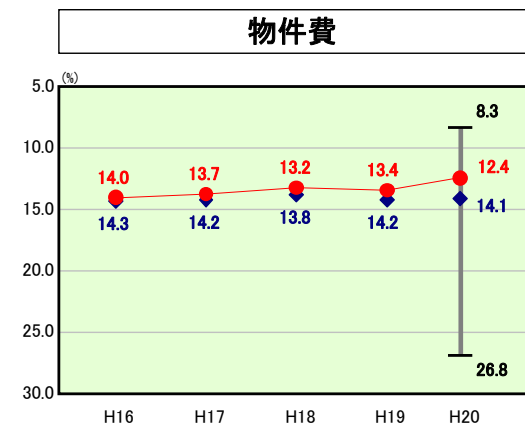
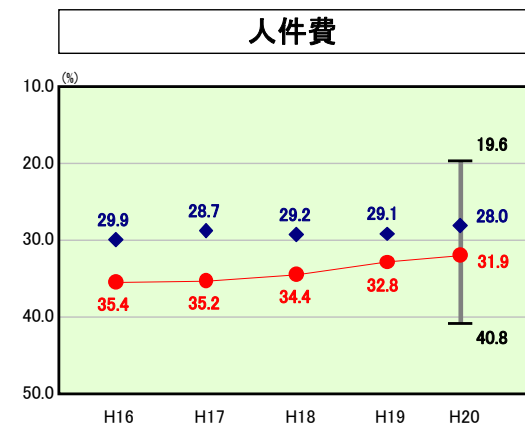
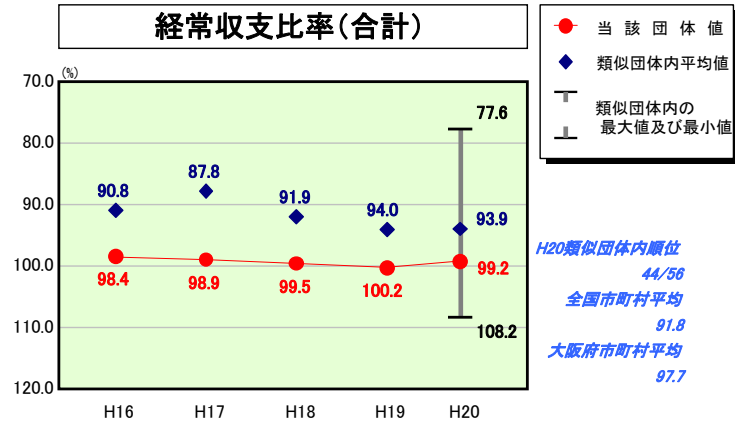


- 4. ラスパイルズ指数**
ラスパイルズ指数は100を下回っているものの、類似団体平均と比較すると0.1ポイント上回っている。地域手当の段階的削減や、各種手当の見直しにより給与の適正化に努める。
- 5. 将来負担比率**
過去に土地開発公社により取得した多額の用地の保有高が影響し、類似団体平均を大きく上回っている。これまでも土地開発公社経営健全化計画に基づき保有高の削減に努めてきたが、今後もより一層削減に努め、将来負担比率の低下を図る。

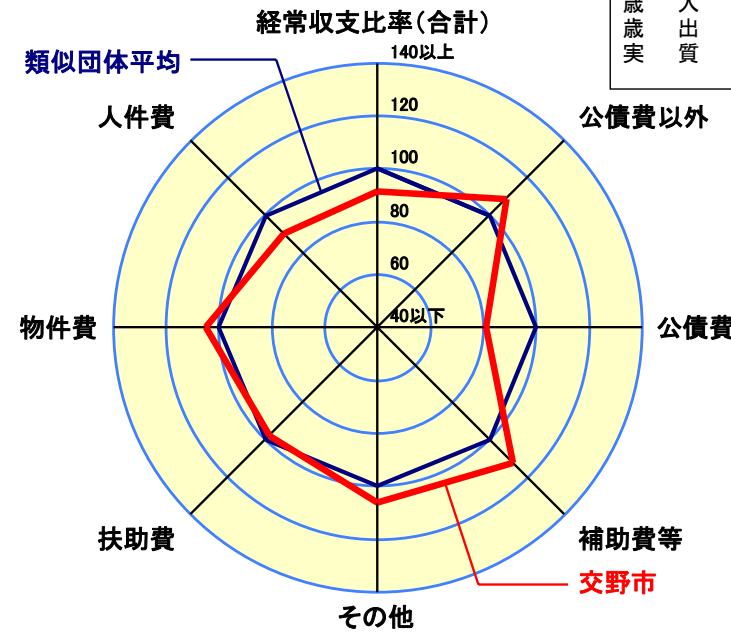
- 6. 実質公債費比率**
過去に都市基盤整備等を実施するために発行した市債の公債費が多額であるため、類似団体平均を上回っている。事業の見直し等により市債の発行を抑制し、実質公債費比率の低減に努める。
- 7. 人口千人当たり職員数**
新規採用を退職者未満に抑制してきたことで、類似団体平均を下回っている。今後も平成17年度に策定した集中改革プランにより平成22年度までに8.7%の削減を目標に職員数の削減に努める。

歳出比較分析表(平成20年度普通会計決算)

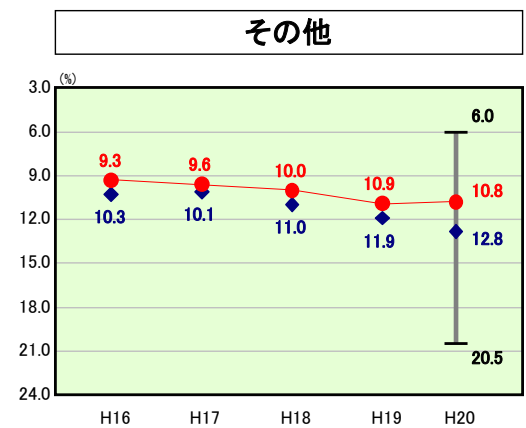
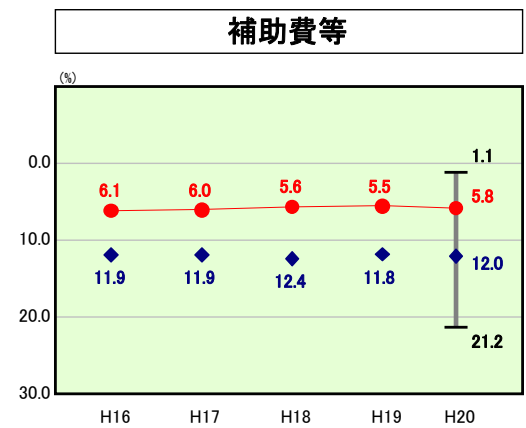
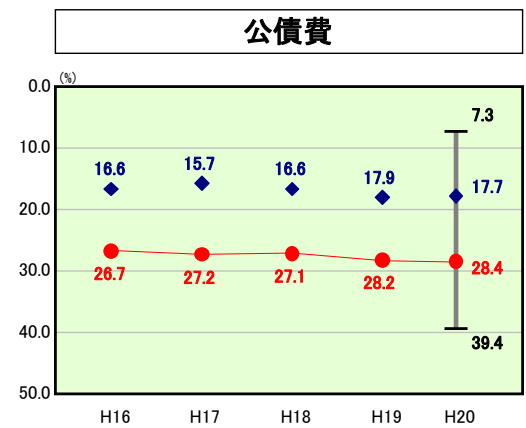
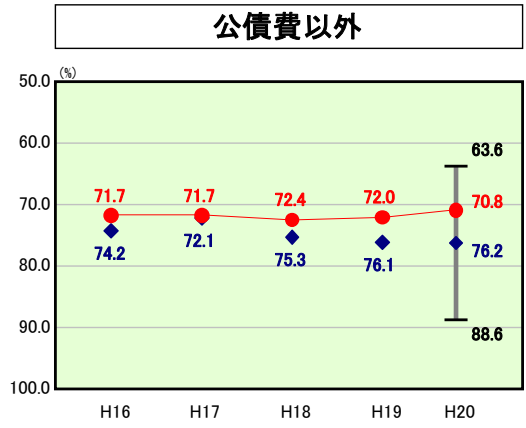
経常収支比率の分析



| | |
|--------|-----------------------|
| 人口 | 78,470人(H21.3.31現在) |
| 面積 | 25.55 km ² |
| 標準財政規模 | 13,428,270千円 |
| 歳入総額 | 19,768,325千円 |
| 歳出総額 | 19,613,290千円 |
| 実質収支 | 122,802千円 |



※1 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
 ※2 当該団体の八角形が平均値の八角形より外側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
 ※3 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

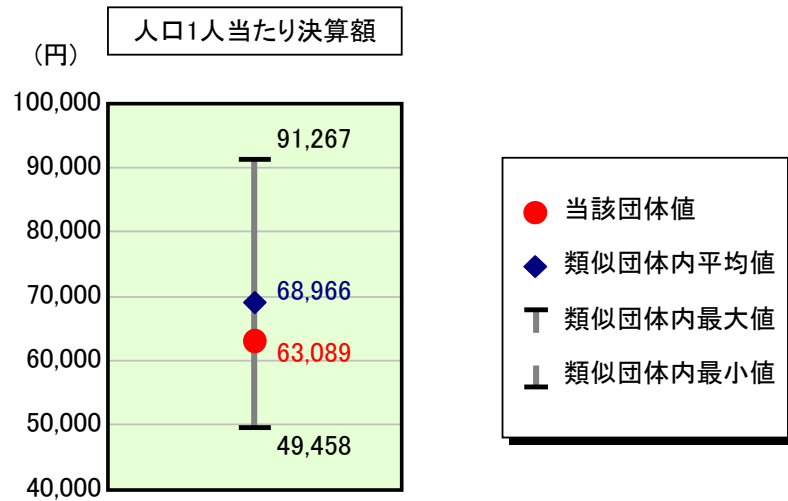


分析欄

- 人件費(別掲「人件費及び人件費に準ずる費用の分析」を併せて参照)**
 人口1000人あたりの職員数や職員給は類似団体平均を下回っている。ただし、委員等報酬が上回っており、これは退職者の補充を非常勤職員で補ってきたことによる。人件費総額の抑制については、地域手当については平成18年度には10%の支給率であったが、段階的に引き下げを行い22年度に3%の支給率とする。また住居手当についても平成20年度に見直しを行うなど各種手当の適正化を図っている。また、団塊の世代の退職により多額の退職手当が必要となっているが、新規採用を抑制することでさらなる人件費の削減に努める。
- 扶助費**
 児童手当の制度改正や生活保護世帯の増加により比率が大幅に増加し、従来類似団体平均を下回っていた比率が18年度で0.3ポイント、20年度では0.6ポイント上回るようになった。景気の悪化等もあり引き続き生活保護世帯が増加傾向にあることから、今後も類似団体平均を上回る率で推移する見込である。
- 公債費(別掲「公債費及び公債費に準ずる費用の分析」を併せて参照)**
 類似団体と比較しても10ポイント以上、府内市町村と比較しても9ポイント近く上回っており、他団体と比較して非常に高い数値となっている。この大きな要因は平成の初頭に、人口急増に伴いそれまで遅れていた都市基盤整備を急速に行い、その財源の大部分を地方債の発行に頼ったことによる。平成22年度をピークに公債費は減少する見込であるが、今後についても投資的経費を抑制し、元金償還以上の発行をしないなど地方債の残高を減らすとともに、公債費の削減に努める。
- 普通建設事業費(別掲「普通建設事業費の分析」参照)**
 普通建設事業費の人口1人あたりの決算額は類似団体の32,868円に対し、当市は19,551円と大きく下回っている。厳しい財政状況や地方債残高が多額であるなどの状況から普通建設事業費の抑制に努めてきた。今後も、各種施設の老朽化への対応や土地開発公社の健全化などの課題があるものの、事業の凍結、延伸などにより事業費を極力抑え、市民の安全・安心に係る学校の耐震化や給食センターの更新、当市の大きな課題である土地開発公社の健全化など優先度の高いものから重点的に行う予定である。

歳出比較分析表(平成20年度普通会計決算)

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



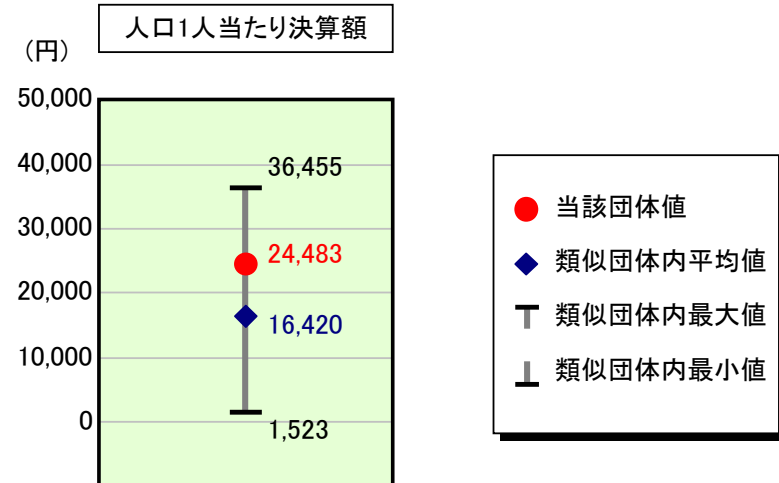
人件費及び人件費に準ずる費用

| | 当該団体決算額 (千円) | 人口1人当たり決算額 | | 対比 (%) |
|-------------------------------|-----------------|------------|------------|--------|
| | | 当該団体 (円) | 類似団体平均 (円) | |
| 人件費 | 5,034,726 | 64,161 | 63,507 | 1.0 |
| 賃金(物件費) | 181,697 | 2,315 | 3,108 | ▲ 25.5 |
| 一部事務組合負担金(補助費等) | 143,977 | 1,835 | 5,417 | ▲ 66.1 |
| 公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等) | - | - | 933 | - |
| 公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金) | - | - | - | - |
| 公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金) | 215,675 | 2,749 | 3,110 | ▲ 11.6 |
| 事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費) | 16,076 | 205 | 1,188 | ▲ 82.7 |
| ▲退職金 | ▲ 641,563 | ▲ 8,176 | ▲ 8,296 | ▲ 1.4 |
| 合計 | 4,950,588 | 63,089 | 68,966 | ▲ 8.5 |

参考

| | 当該団体 | 類似団体平均 | 対比(差引) |
|-------------------|------|--------|--------|
| 人口1,000人当たり職員数(人) | 6.13 | 6.18 | ▲ 0.05 |
| ラスパイレス指数 | 98.8 | 98.7 | 0.1 |

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

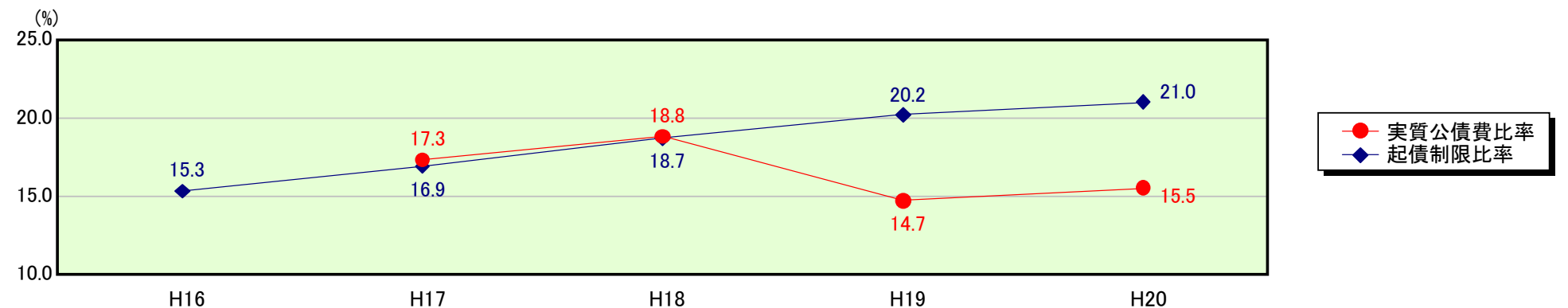


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

| | 当該団体決算額 (千円) | 人口1人当たり決算額 | | 対比 (%) |
|---|-----------------|------------|------------|--------|
| | | 当該団体 (円) | 類似団体平均 (円) | |
| 公債費充当一般財源等額 (繰上償還額及び満期一括償還地方債の元金に係る分を除く。) | 3,180,228 | 40,528 | 26,996 | 50.1 |
| 満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)等 | - | - | 111 | - |
| 公営企業債の償還の財源に充てたと認められる繰入金 | 262,787 | 3,349 | 9,627 | ▲ 65.2 |
| 一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金に充当する一般財源等額 | 74,913 | 955 | 3,352 | ▲ 71.5 |
| 債務負担行為に基づく支出のうち公債費に準ずるものに充当する一般財源等額 | - | - | 1,368 | - |
| 一時借入金利息 (同一団体における会計間の現金運用に係る利息は除く) | 852 | 11 | 31 | ▲ 64.5 |
| ▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額 | ▲ 1,597,577 | ▲ 20,359 | ▲ 25,065 | ▲ 18.8 |
| 合計 | 1,921,203 | 24,483 | 16,420 | 49.1 |

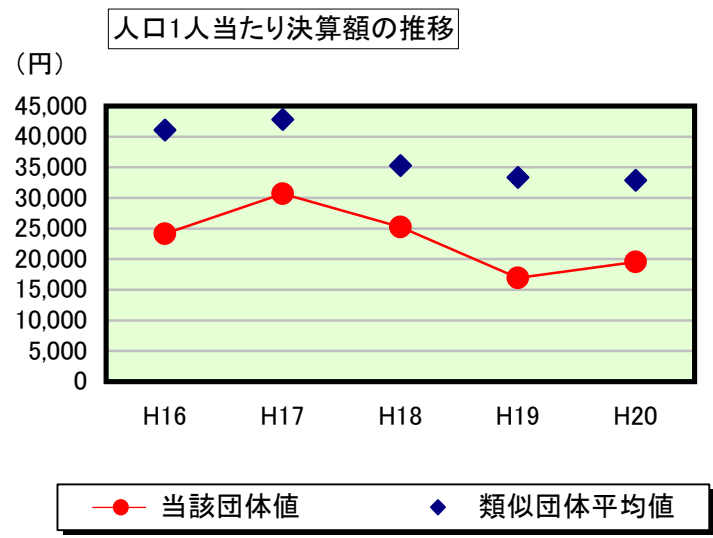
平成21年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体については、「-」としている(以下の項目について同じ。)

※参考 実質公債費比率及び起債制限比率の推移



歳出比較分析表(平成20年度普通会計決算)

普通建設事業費の分析



普通建設事業費

| | 当該団体決算額 (千円) | 人口1人当たり決算額 | | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|-----------|------------|---------|
| | | 当該団体(円) | 増減率(%) (A) | 類似団体平均(円) | 増減率(%) (B) | (A)-(B) |
| H16 | 1,882,669 | 24,123 | 56.3 | 41,062 | ▲ 12.4 | 68.7 |
| うち単独分 | 1,805,343 | 23,133 | 78.6 | 28,632 | ▲ 14.1 | 92.7 |
| H17 | 2,408,822 | 30,673 | 27.2 | 42,811 | ▲ 4.3 | 22.9 |
| うち単独分 | 2,382,545 | 30,339 | 31.2 | 29,783 | ▲ 4.0 | 27.2 |
| H18 | 1,983,226 | 25,223 | ▲ 17.8 | 35,287 | ▲ 17.6 | ▲ 0.2 |
| うち単独分 | 1,926,593 | 24,503 | ▲ 19.2 | 22,883 | ▲ 23.2 | 4.0 |
| H19 | 1,329,302 | 16,925 | ▲ 32.9 | 33,360 | ▲ 5.5 | ▲ 27.4 |
| うち単独分 | 1,179,903 | 15,023 | ▲ 38.7 | 21,314 | ▲ 6.9 | ▲ 31.8 |
| H20 | 1,534,172 | 19,551 | 15.5 | 32,868 | ▲ 1.5 | 17.0 |
| うち単独分 | 1,352,687 | 17,238 | 14.7 | 22,184 | 4.1 | 10.6 |
| 過去5年間平均 | 1,827,638 | 23,299 | 9.7 | 37,078 | ▲ 6.5 | 16.2 |
| うち単独分 | 1,729,414 | 22,047 | 13.3 | 24,959 | ▲ 7.2 | 20.5 |